

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	延長保育事業						掲載ページ		
							42		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		828,114	千円	825,625	千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保護者の就労形態の多様化や、残業等に伴う保育時間の延長への需要に対応するため、通常の保育時間を越えて、午後7時まで延長する「延長保育」の実施箇所数を拡充します。また地域の実状を踏まえ、子どもの生活リズムに配慮しながら、午後8時までの延長保育の実施を検討します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	延長保育事業を実施する保育所の施設数を拡充します。午後8時までの延長保育の実施について検討します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】
	延長保育事業を実施する保育所の施設数（午後7時まで）		141 所	143 所	143 所 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保育所の新設や公立民営化に伴う延長保育事業の実施および既存保育所の新規実施により、実施施設数の増を図ります。 （最終目標と最終年度）153所、平成26年度						
	延長保育事業を実施する保育所の施設数（午後8時まで）		- 所	- 所	- 所	順調 やや遅れ 遅れ	順調
午後8時までの延長保育の需要を鑑みながら、実施施設の検討を行います。 （最終目標と最終年度）20所、平成26年度							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は、延長保育事業（1時間延長）の実施施設を2所増設し、合計143所延長保育を実施しました。平成23年度の延べ利用児童数は、17,343人であり、多様化する就労形態への対応として高い効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国が示す補助基準額に準じて補助を設定しており、効果的に事業を実施しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること

保護者の就労形態の多様化に対応するため、「元気発進！子どもプラン」に基づき、事業の拡充を行います。「延長保育」の実施施設数を、引き続き拡充します。また地域の実状を踏まえ、子どもの生活リズムに配慮しながら、午後8時までの延長保育の実施については引き続きニーズの把握に努めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	夜間(長時間)保育事業						掲載ページ		
							42		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		9,897	千円	12,238	千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保護者の就労形態の多様化に伴い、夜間の保育需要に対応するため、午前7時から深夜0時まで利用できる「夜間保育所」を1所開設しています。今後は利用者の動向を踏まえて入所定員の拡大を検討します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	現在の施設で事業を継続し利用者の動向をふまえて入所定員の拡大を検討します。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】		
	夜間保育事業を実施している保育所の現状維持					活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	夜間保育事業の実施設数については現状の体制の維持に努めます。 (最終目標と最終年度) 1所(現状維持)、平成26年度	1 所	1 所	1 所 100.0 %	大変順調			
	(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	現在の入所状況及び入所申込状況から考えると、現状1所に対応可能と思われます。平成23年度は延べ利用児童数は、523人・月であり、多様化する就労形態への対応として深夜にまで仕事に及ぶ保護者に高い効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国が示す補助基準額等に基づき補助を行っており、効果的に事業を実施しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
保護者の就労形態の多様化に対応するため、現状の事業規模を維持し、利用者の動向をふまえて入所定員の拡大を検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	休日保育事業							掲載ページ
								42
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局
		17,211	千円	17,001	千円	施策名	保育サービス	担当課
								子ども家庭局
								保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 日曜日、祝日及び年末に就労している保護者に対応するため、休日等に指定された保育所を開所し、保護者の就労を支援します。			活動実績	活動結果は以下のとおりです。		
活動計画	休日等に指定した保育所を開所します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】
	休日保育事業を実施している保育所の施設数						活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	日曜日、祝日及び年末に就労している保護者に対応するため、休日等に指定した保育所を開所します。 （最終目標と最終年度）9所（平成26年度）		7 所	7 所	7 所 100.0 %	大変順調	
	（最終目標と最終年度）					順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保護者の就労形態が多様化する中、各区1か所で事業を実施しました。平成23年度の延べ利用児童数は1,779人・日であり、多様化する就労形態への対応として効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託料は国の補助基準額をベースに実績に応じた額としており、合理的に実施しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
保護者の就労形態の多様化に対応するため、「元気発進！子どもプラン」に基づき事業の拡充を検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特定保育事業							掲載ページ
								43
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局
		5,940	千円	7,200	千円	施策名	保育サービス	担当課
								子ども家庭局
								保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	パート就労などの多様な働き方を支援するため、週に2,3日程度または午前か午後のみなどの就労形態に応じて柔軟に利用形態を決めることができる「特定保育」を実施します。		活動実績	活動結果は以下のとおりです。		
活動計画	週に2,3日程度または午前か午後のみなどの就労形態に応じて柔軟に利用形態を決めることができる「特定保育」を実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	特定保育事業を実施している保育所の施設数					活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	特定保育事業の実施箇所数について、現状の実施体制の維持に努めます。 （最終目標と最終年度）5所（現状維持）：平成26年度	5 所	5 所	5 所	100.0 %		大変順調
						順調	
					やや遅れ	順調	
					遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度の延べ利用児童数は550人・日であり、多様化する就労形態に対応しており一定の効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託料は国の補助基準額をベースに実績に応じた額となっており、合理的に実施しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
保護者の就労形態の多様化に対応するため、現状の箇所数を維持し、事業を実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	急病の子どもを支える仕組みづくり						掲載ページ
							43
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		- 千円	- 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	仕事と子育ての両立を支援するため、保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです		
活動計画	仕事と子育ての両立を支援するため、保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	社会福祉研修所における研修の実施と企業などの職場に対する働きかけ				大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	保育所等の施設が、子どもの病気時の対応についての理解を深めるため、社会福祉研修所において継続的に研修を実施します。企業などの職場に対して、子どもの病気についての理解を深めるための情報提供を行います。 （最終目標と最終年度）						
	「ほっと子育てふれあいセンター」など各種団体による支援の促進				順調	順調	
「ほっと子育てふれあいセンター」など各種団体による支援のための情報提供を行います。 （最終目標と最終年度）				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保育所に対しては、社会福祉研究所における研修を通じて、乳幼児期の子どもの病気や、保育所などでの対応についての啓発を行いました。この研修は、保育所等施設などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支えるものであり、その有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保育課の課長級職員を研修の講師とするなど、必要最小限のコストで高い効果が得られるものと考えます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
企業などの職場に対して、子どもの病気についての理解を深めるための情報提供の実施や、「ほっと子育てふれあいセンター」など、各種団体による支援の促進のための情報提供を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	病児・病後児保育の充実						掲載ページ		
							43		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		87,662	千円	115,169	千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	仕事と子育ての両立を支援するため、保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです	
活動計画	仕事と子育ての両立を支援するため、保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	病児・病後児保育事業を実施している施設の箇所数	8 / 9 施設 (88.9%)	9 施設	9 施設	100.0 %	大変順調	
	保護者ニーズが高いため、医師会に対して実施施設の推薦を働きかける等により、実施箇所数の増を図ります。 (最終目標と最終年度) 11箇所(26年度)						
	病児保育室の空き情報の共有化					順調	
病児・病後児保育施設の空き情報をインターネットを共有化して保護者に提供できる仕組みをつくります。 (最終目標と最終年度) 運用開始(26年度)					やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 病児・病後児保育事業の実施施設については、当初、平成22年度拡充予定でしたが、平成23年度に1施設拡充する方向で調整を行い、平成23年8月に小倉北区の井掘で新たな施設を開設しました。病児・病後児保育施設の空き情報システム【病児・病後児保育施設の利用状況(空き情報)】をインターネットを共有化し保護者に提供する仕組みづくりの稼働に向けた準備を行いました。9箇所での病児・病後児保育事業を実施しましたが、全体として利用児童数は増加傾向にあるなど保護者ニーズは高く、その有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 国の補助基準額を踏まえた委託料で所要の人員配置をしつつ、多忙な小児科医の自助努力により事業を実施している状況から、コスト削減は困難と考えます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
施設数については、平成24年度中は現状維持(9施設)とし、25年度以降の拡充に向けた検討を行います。平成24年度中に、病児・病後児保育施設の空き情報システムの稼働を行います。